

平塚柔道協会は元気一杯、頑張っています!

# ☆ 平 柔 通 信 ☆

平塚柔道協会発行  
責任者 会長 奥山晴治

## 全国大会の夢 1回戦で散る! まだまだ成長できるよ!



3月21日(月:祝)県立武道館で全国少年柔道大会神奈川県予選会が開催されました。初戦は最大の難関、一道館(本大会優勝)との対戦となりました。メンバー(馬場・大蔵・原田・真田・上水)一丸となって挑みましたが、先鋒から中堅まで一本負けし、副将大将が引き分けで0-3で敗退しました。圧倒的に稽古不足と経験不足が出た試合であったと金井監督は振り返りました。久々の試合は、緊張感等もあり、思うような試合運びはできず、流れを呼び寄せることはできませんでしたが、敗れた選手たちは、「もっと強くなりました。」と口をそろえて話していたそうです。まだまだ伸びるぞ!

## 卒業おめでとう! 6年生送別ボウリング大会3年ぶりに開催

3月21日(月:祝)、全国大会予選と同日、3年ぶりに、コロナの影響を受けて中止していた6年生ボウリング大会が神奈中ボウルで行われました。今回は、感染対策を講じた上で卒業生と指導者のみでの開催となりました。普段は道場以外でみんなと会う機会がないので、終始楽しい時間を過ごすことができました。残念ながら全員参加とはいきませんでした。6年最後の思い出の一つになったと思います。これからも頑張ってください。ボウリングの結果は、優勝原田(悠)君、2位原田(龍)君、3位柴田君でした。



## 「行き過ぎた勝利至上主義が散見される」小学生の柔道全国大会が廃止

毎年夏に開催していた全国小学生学年別大会を2022年度から廃止することが、全日本柔道連盟から通知された。通知には「行き過ぎた勝利至上主義が散見される」と理由が書かれている。04年度から始まったこの大会は、全柔連がただ一つ単独主催する小学生の全国大会。5、6年生が対象の個人戦で、重量級と軽量級に分かれて開催されていた。指導者が子どもに減量を強いたり、組み手争いに終始する試合があったりした。判定を巡り指導者や保護者が審判に罵声を浴びせることもあったという。全柔連幹部は「大人が、子どもの将来ではなく、眼前の勝敗に拘泥する傾向があった。見つめ直す契機にしてほしい」と話す。  
→ 本件については、その賛否が多くあります。目標にしていた子供にとっては残念ですが、将来を見据えた上での判断と前向きに捉えていくべきかと考えます。



★ 家庭内感染などにより、コロナの感染がまだまだ高止まりしています。不織布マスクの着用、会話の距離、手指消毒など引き続きコロナ感染防止対策を徹底願います。

(4月の予定) 原則、火曜日・土曜日に実施です。※詳細はおって連絡します。

今月の目標・

相手の重心がどこにあるか、どこに移動するか考えて技を掛ける

(雑感) ~4月になりました~ 新たに学年も変わり、新学期が始まります。子供達は新たな気持ちになっていることと思います。筆者も4月に福島に異動となりました。仙台勤務は1年でしたが、コロナ禍で観光することもできず、また、地震もあり大変な1年でした。福島でも同様に地震を心配していますし、施設を管理するのでコロナ対応ほか大変そうです。平柔稽古には、もう3年近く参加できていませんので、筆者を知らない子供達も多くなっていると思います。このような形で毎月1回の平柔通信を発行することで平柔とのつながりを続けていますが、本心は、一緒に稽古をしたいと思っていますので、早くその日が来ることを楽しみにしています。柔道界は、コロナ禍でも、本格的に通常の運営を進めようとしています。各種大会も有観客開催をしようとしています。コロナの特性を理解し、それに応じた感染対策を徹底することにより、「柔道は稽古も試合もできる。」ということ、力強くアピールしていただきたいと思っています。東京五輪の余韻は終わり、すでに次のパリ五輪も見え始めています。平柔出身で各カテゴリで活躍している選手もいます。「桜咲く4月」、平塚から桜のように鮮やかに咲き乱れる活躍が見られることを大いに期待しています。(五)